

## 平成30年度第1回北区民まちづくり会議 摘録

1 日 時 平成30年9月18日（火） 午後6時30分～午後8時20分

2 会 場 北区役所 大会議室

3 出席者 委員20名（5名欠席）

### 4 次 第

#### (1) 報 告

- ・ つながるプログラム進ちよく状況
- ・ 平成28年度，29年度議論及び取組実績
- ・ 学区まちづくりビジョンに係る各学区の特徴

#### (2) 議 題

- ・ 平成30年度まちづくり会議の進め方

### 5 摘 録

#### ○事務局

ただ今から，平成30年度第1回北区民まちづくり会議を開会する。  
開会にあたり，区長の松本から一言挨拶を申し上げる。

#### ○区 長

皆様大変お忙しい中，本日も，北区のまちづくりのためにご出席いただき，心から感謝を申し上げます。

9月4日に発生した台風21号による被害は非常に甚大なものとなった。特に小野郷，中川，雲ヶ畑の北山3学区については，一週間以上，停電した地域があり，現在も倒木等により道路の通行止めが続いている。被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに，被災状況の把握等にご協力いただいた関係各位の皆様方には改めて御礼申し上げます。北区役所としては，全力を挙げて，区民の皆様の一刻も早い生活の復旧に力を入れて参る所存である。

こういった災害時にこそ，人と人との繋がり，地域コミュニティの大切さを痛感する。例えば，停電が起こった時，自分の家だけなのか，あるいは周辺地域全体なのか，非常に気になるところである。そんな時，隣近所に情報を聞きに行くことができれば，それだけで気持ちが安らぐものである。

この地域コミュニティの問題は，人口減少問題と併せて，北区基本計画の目標の1つに掲げられており，一昨年度から，この会議で議論を重ね，空き家，あるいは子育てといった視点で取り組んできた。

他にも、例えば文化、観光など、色んな切り口から、北区の地域コミュニティ、ひいては、北区のまちづくりを活性化させる余地が多くある。今後、この会議では、次期基本計画の策定を見据えた議論をしていただく予定をしており、そのために、より幅広い分野、視点から多くの御意見をいただきたい、そんな思いから、昨年度より5名、委員を増員し、総勢25名の皆様に、この会議の委員に御就任いただいた。

今後とも、4人の先生方を筆頭に、様々な御意見、御協力をいただき、「住みたい、住み続けたい」と実感していただける北区としていきたいと考えているので、本日も含め、今後もしよろしくお願ひしたい。

#### ○事務局

それでは本日の会議を進めさせていただく。

今春は、委員の改選があったので、座長、副座長の選出をさせていただく。お手元にお配りしている「京都市北区民まちづくり会議開催要綱」をご覧ください。要綱第4条第1項に「北区長は、委員のうちから座長及び副座長を指名する」とあるので、北区長から、座長及び副座長の指名をさせていただきたい。

座長には、引き続き、社会福祉を御専門とされている大谷大学社会学部長の志藤委員に、また、3名の副座長には、出産や育児等の分野が御専門の京都産業大学 藤野委員、防災等の分野が御専門の佛教大学 松岡委員、歴史や文化を御専門とされている立命館大学 河角委員にお願ひしたい。

それでは、最初の会議なので、志藤座長から代表して一言ご挨拶を頂戴したい。

～志藤先生から挨拶～

#### ○事務局

他の委員の皆様の自己紹介については、後程ご意見をお伺いする際にお願ひしたい。それでは、会議の進行については、本会議の座長である志藤先生にお願ひする。

#### ○志藤座長

手元の次第に従い、議事を進行させていただく。最初に、今回、委員改選により初めてご参加いただく方もおられるので、北区民まちづくり会議の役割、また改訂をひかえている北区基本計画について、事務局からの説明をお願ひする。

#### ○事務局

<北区基本計画、北区民つながるプログラム等により説明>

#### ○志藤座長

ただいまの事務局からの説明について、質問や意見などがあれば、お願ひする。

(質問、意見なし)

○志藤座長

それでは、現行の基本計画（つながるプログラム）がどのようになっているのか、その件につきまして、報告1「つながるプログラム進ちょく状況」、報告2「平成28年度、29年度議論及び取組実績」及び報告3「学区まちづくりビジョンに係る各学区の特徴」として、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料1，資料2－1～2－7，資料3により説明>

○志藤座長

ただいまの事務局から報告のとおり、つながるプログラムに沿って部会等で議論してきたことを確実に区政に反映しながら進めてきていただいている。皆さんに御協力いただきながら、実のある取組ができていると思う。

ただいまの事務局からの説明について、質問や意見などがあれば、お願いします。なお、藤野委員から部会の様子などについて何かあれば発言をお願いしたい。人口については、減少している現状からプラスに転じさせるというかなり厳しい目標を設定している。

○委員

ひと・まち活性化部会では、人口減少抑制等について議論を進めてきた。人口減少は実際のところ、働き方の問題、家族の多様化などの多様な要因から起きていると考えられるが、部会では、内容を絞った方が話しやすいため、地域で子どもを育てる環境づくりをテーマに議論した。本当は他の要因について話したいという方もおられたと思うが、NPOなど様々な団体の委員が意見交換し、現状を把握できたのは良かったと思う。

○志藤座長

地域コミュニティ賑わい部会では、72%から80%という難しい目標設定をしている地域コミュニティ活性化のための自治会等加入率について議論いただいている。こちらについては、高奥委員に発言をお願いしたい。

○委員

町内会加入率が低い理由の一つに、町内のマンションに全く情報が伝わっていないということがある。地域でイベントなどを実施しても、勝手にやっているという雰囲気になってしまう。どのようにして地域の取組を知ってもらうか、町内会に入っていない方にも入ってもらえるような仕組みを作るか。例えば、防災訓練も町内会加入の一つのきっかけになると思う。北区基本計画やつながるプログラムは非常によい取組だが、あまり知られていないと思うので、我々がどのようにして広めていくかを考えたい。また、皆さんの地域活動の進め方を地域代表者や小学校PTAなどに伝えていければと思う。どんな取組でも始めてから4～5年はかかるので、長い目で進めたい。区役所はうまくおだてながら地域の活動を指導してもらえれば。私自身もいま町内会長をしているが、これからも本腰を入れて頑張らなくてはと思っている。

○志藤座長

部会では、いつも同じ課題で悩んでいるが、いま高奥委員が話されていたように、一歩でも二歩でも少しずつ長い目で、しかし機会を逃さず進めていきたい。

続いて、議題1「平成30年度まちづくり会議の進め方」について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

<資料4-1, 4-2により説明>

○志藤座長

それでは、お一人お一人自己紹介も兼ねて次期計画に向けてのご意見や今のご活動で抱えておられる課題等あればお話しいただきたい。つながるプログラムにもあるキーワード「Think 北区から Link 北区へ」のように、情報共有しながらお互いに繋がっていければと思う。それでは、公募委員の坂口様から順番にお願いします。

○委員

子どもたちの居場所づくりの取組を始めて8年となる。昨年度からは、新大宮商店街で放課後等デイサービス「そらいろチルドレン」をスタートした。北区に限らず全国的な課題となるかもしれないが、不登校、いじめなどにより学校に行けなくなったお子さんも来ている。誰一人取り残さない社会となるように、地域の中で憩うことのできる居場所がもっと増えていけばよいのかなと感じているところである。少しでも貢献できればと思う。

○委員

新大宮商店街で朝ごはん専門の飲食店を営んでいる。文化などが定着する3つの要素は、「継続」「共感」「誇り」だと思っている。その中でも、一番重要なのは「誇り」だと思う。北区には、つながるプログラムというすごいものがあるのでそれを誇りに思い、取組を継続し、それが共感を得られるようなサイクルができればと思う。任期は2年であるが、北区民である以上、私も取組を続けていければと思う。

○委員

ラジオミックス京都を立ち上げてから今年で3年目となり、ようやく色々形ができてきたかなと思う。私はずっと関東に住んでおり、なかなか町内会に参加する機会もなかったが、京都に住み始めて町内会に入る機会を得た。いろいろ大変そうだなと思っていたが、町内会の行事に参加してみると、大変な部分もあるが、顔見知りの関係ができてきた。こういうことが大事なのだと思った。自分自身も情報を発信する立場として、若い世代が入り込むきっかけづくりができればと思う。若い世代であっても町内会に興味をもっている人もいると思うが、地域と出会うきっかけがなく、情報を得られないのではないかな。私自身もこれまでこのような会議を開いていることを知らなかった。会議で話し合ったことなどを若い世代に発信していければと思う。

### ○委員

私は「みんなの家」で高齢者を対象とした食育ワークショップ、調理実習や子ども食堂を展開している。学生時代は北区に住んでいたが、一回北区を離れ西京区に移った。このときに活動を始めたが、北区民ではないため情報が入らなかつたり、地域に溶け込めず単発イベントなどを実施していた。これではだめだと思い北区に引っ越してきた。新たなコアな情報がほしいというのが現在の課題である。私自身もまだ北区民になりきれていないので、周りとの壁や隔たりを感じる。言い訳になるかもしれないが、仕事とイベントの両立が難しく、葛藤しているのも事実である。勿体ないと思うのは、学区独自のネットワークを持っているのに高齢化のためマンパワーが弱くなっているように見受けられることである。そういうところでうちのイベントを活用していただければと思う。

### ○委員

29年度後半から北区役所で、第1ブロック33名の空き家相談員が空家相談会を月1回開催している。参加者はまだ少したが、この相談会を継続していくことにより、空き家の減少に少しでもつながればと思っている。空き家となるのは高齢者の単身世帯が多い。空き家を1件でも多く流通させて、地域の活性化や人口減少の課題に役立てばと思う。相談会の情報は、市民しんぶんにも掲載しているので、周りで空き家の話が出たら、ぜひ相談に行くように声をかけていただければ有難い。

### ○委員

西陣R倶楽部は、北区の西陣界限でアート、クラフト、オーガニックなどのジャンルにおいて面白いことをやろうという若い人の集まりである。公募委員の平元さんも会員のお一人である。わざわざこの地を選んでやってくる理由は、北区は非常にゆっくりお客さんとのやりとりを楽しみながら進めていける場所だからということである。北区にはそういう魅力があり、多様性を受け入れる雰囲気がある。このような新しい人たちの情報を発信して、次々と若い人を受け入れ、高齢化社会を元気にしていきたい。既存の町内会・自治会とは少し距離があるかもしれないが、新しい交流人口を呼び込むことのできる層である。また、町内会との交流もうまくできればというのが次の課題である。学区の中には自治会加入率99%という学区があるがなぜなのか。そこは学区民全員が市政協力委員などの何かの委員となり、新しく越してきた人を快く受け入れている。越してきた人にはまずご挨拶し、お店を出した方にはお祝金を持っていき、次の年は町内会に入ってくださいと勧める。町内会長になる人が活発かどうか左右されることなく、町内会と各種団体が交差しており、取組を平準化して継続する工夫がある。北区の学区の中でも温度差のあるところもあると思うので、何が原因でそうなっているのかを大学の先生方や学生さんで調査をいただければ有難い。

### ○委員

高齢化のため農業者は減少しており、後継者も少ない。農地も減少傾向にある。農地の隣地の大半が住宅であり、農薬散布等では気を遣って小さくなって進めている。その点をご理解いただき、農業と地域との共存ができればと思う。また、積極的に地元の野菜を食

べていただければ嬉しい。11月27日には大宮小学校体育館で支部単独の野菜の品評会を開催するので、ぜひ覗いてもらえればと思う。

#### ○委員

まちづくり会議委員を務めて今年で5年目となる。伝統的な北山丸太、北山杉は、消滅の危機にある。全容については不明だが、先日の台風では昨年台風に続き、倒木が多数あり、かなりの被害が出た。北山杉は山で立っている姿と製品の姿が全然違う。山で綺麗に見えても台風の被害を受けた木は横縞が入っているなど、伐採してからでないとは分からないことがある。地場産業の活性化は、地域の活性化にも繋がる。組合の理事長という立場から、後世につながるように伝統を守っていききたい。それが、ひいては地域の活性化につながるのではと考える。

#### ○委員

景観まちづくりについては、あまり関心がないとか、そんなこと言ってもらえないなどよく言われる。しかし、見てくれをよくするというのではなく、地域の大切にしている文化・歴史などを共有する取っ掛かりが景観だと思っている。各学区まちづくりビジョンを拝見して、住んでいる皆さんが、地域の歴史などに誇りを持ってもらえることがわかった。先ほど、委員からも話があったが、まちを良くしていく上で誇りを持つことは大切である。これから京都に文化庁が来て、文化の時代だと言われるが、皆さんはすでに色々な地域力を持っている。学習会での4人の先生方のお話も興味深い。これからも、まちづくり、人のつながりに関わり、少しでもお手伝いできればと思っている。

#### ○委員

元町小PTA会長という立場で北上支部の各会長と話をする機会があり、学区によって同じような悩みもあれば、違うものもあることを知った。私は元町学区のことしか分からないが、PTA会長になって初めて分かったことも沢山あった。色々な団体との交流や行事等への参加で見えてくることもある。小さな学区だが子どもの数が減少し、老人のご家庭が多くなってきていることが目に見えて分かる。縦も横も多様なつながりを持っているんな取組を進めていければと思う。

#### ○委員

人口動態の出生数については、ここ数年かなり減少している。頑張っていた時期と比べると話題にすることも減ってきているのではないかと。子供の数は減っているが、保育園は定員が増え、在園数も増加している。4月段階では5年連続で待機児童数は0人だが、10月に入ると入園できない児童が生じている。定員は増えているが、保育士を確保できなければ子どもの受入れはできない。先日も9月1日にみやこめっせで就職フェアがあり、北区からも半分くらいの園が出ていた。大阪から北区へ来てもらおうと思っても難しく、北区に住んでいる人に保育士になって勤めてもらえればと思う。幸い北区には佛教大学・大谷大学の養成校2校がある。ぜひ大学にもご協力いただき、北全体で子育てが進められる体制を作りたい。周りでも独居老人が多く、子どもは同居しないで都会にいつてしまっているとのことである。北区で就職の紹介をするなどもできればよい。

### ○委員

この会議に初めて参加させていただいた。それぞれの委員の方の思いを聞きとても嬉しく思った。保健協議会連合会は、健康な暮らしを目指して、市民と行政とのパイプ役をしている。今年度は、北区が「健康長寿のまち・北区」の下、京都産業大学の先生方と一緒にインターバル速歩を促進している。健康に過ごせなくては地域とのふれあいも停滞する。日頃から健康についての目標を掲げ、元気な高齢化社会となっていけば、まちも活性化するのではないか。インターバル速歩の講習会は、一般枠で応募した。5回の講習を頑張っ  
て受けたいと思っている。

### ○委員

地元では小野剛自治会会長を務めている。北区の一番端の山で囲まれた山間部であり、人口は毎年減少している。7年前には平均年齢が65歳を超え、40代、50代のご夫婦が全くいない状況である。子どもは今現在0人。10年前に小野郷小・中学校が休校した。市内からわずか30分であるが、子どもたちはみな京都市内に移住し、残るのは親である。そして空き家が年々非常に増えている。そのような状況の下、昨年4月から、かがやき隊員1名に住んでもらい、インターネット等を通じて空き家の情報を発信してもらっている。空き家となっている背景には、代々の仏さんを置いている、処分できていない親の荷物がたくさんあるなど、手放せない原因がある。地元自治会とかがやき隊員が協力しながら1軒1軒当たっている。空き家の増加、人口減少により限界集落となるのを何とか止めたい。何か吉田委員の方で良い案があれば教えてほしい。

### ○委員

まちづくりでは、安全に安心して住めるまちを作るのが一番かと思う。防火、防災などについては、各学区でそれ相応の活動をしているので、心配はしなくていいと思ってる。それとは別に、北区は学生のまちであり、歴史や文化財が非常にたくさんある地域である。こうしたことについて、地域に住んでいても知らない子どもたちが結構多い。例えば、「おさよさん」「夜泣き地蔵」などについて、子どもたちに知ってもらうため、学校の授業の一環で年1回の見学会で現地説明をしている。また、きちんと頭に入ったかどうか検定試験もやっている。最近、役所から「～推進会議」「～会議」など、非常にたくさんの会議の案内をもらい、私も少ししんどいな、もう少し減らしてもらえたらと思っている。各学区の皆さんのご活動は、大体うまい具合にしているのでは思うのだが。いずれにせよ、自分たちのまちづくりなので、今後協力できるところはしていきたい。

### ○委員

北区社会福祉協議会会長をして3年強となる。住んでいる学区は中川学区である。最初に会長を引き受けるという話があったときは、中川学区は、小さな山間地域であり子どもがいないので高齢者の皆さんのことが中心であったが、北区全体となるとそれだけではないので、1年目に呼ばれたところはできる限り行くようにした。保育園発表会や保護司会、障害の皆さんの集まりなど、とても守備範囲が広いことがわかった。いろんな人と知り合えたのはすごく有難い。北山3学区の代表としても話していこうと思っている。市内にいるとわからないこと、住んでみないとわからないことが多い。知っておくこと、つながる

ことは大切である。健常者や障害を持つ方などどんな人の場合でも、人と人とのつながりがベースとなる。今回の台風の際、片山会長のところは1週間～10日間、私のところは4日～5日半、停電していた。その期間は、毎日一人暮らしのお年寄りのところに行き、「大変ですね」「水はありますか」「ろうそくは危ないのでランタンを貸そうか？」などの声かけをしていた。こういった地道な活動が、人と人のつながりとなり、ひいては住みやすく人にやさしい北区となっていくのではないか。18学区というとらえ方をすると、学区によって違いが出る。原谷のこぶしの里を経由して「喫茶いっぷく」を月1回開催し、小野剛学区と中川学区の交流ができています。少しずつだが、いい感じに混じり合ってきている。このような学区を超えたつながりもすごく大事である。9月12日には、大谷大学の学生さんにご協力いただき、サロンの開催と敬老のお祝いをした。とても喜んでもらった。その中で、参加していた人がぼつりと「数日間停電していてすごくさびしかった」と初めて本音を語っていた。家を回っていたときは気丈にふるまっていたが、「地域の中で本当の一人は自分だけ」と言っていた。汗をかいた人とのつながりを社協は大切にしていきたいと思っている。皆さんにもサポート、ご協力をお願いしたい。

#### ○委員

今年度から委員としてお世話になる。専門の「京都学」とは、もとは地理学の分野にあり、地形、自然環境などの空間的な変化を読み取るものである。「京都学」というと京都の中心部というイメージがあるかもしれないが、私の興味は京都の周辺にある。旧家のお宅に残っている古い写真や日記等を、ご協力を得て収集し、デジタル化している。大きな歴史ではなく小さな歴史に着目している。戦前からある地図を用いて、地域の歴史、先ほどお地蔵さんの話があったかと思うが、そういった地域に伝わったものにも着目できたらと思う。本日の会議資料に「近年の取り巻く環境の変化」とあったが、北区、右京区ほどこの100年で変わったところはないと思っている。元々は京都の中心部の胃袋を支えていた農村地帯があったが、明治時代以降に人口が増加する中で都市部の人口を吸収し、支えてきたのが恐らくこの北区である。こうした状況下で、農村の集落の人たちと新しい町の人たちは、きつとうまくやってきたのかなと思っている。先ほど他の委員から「北区には受け入れる体制があるのでは」とのことだったが、例えば、衣笠は絵描き村と言われていた。金閣寺より少し東にも絵描きが住んでいたとのことだが、住宅が密集しつつも、都心のごちゃごちゃした感じではなく、静かな環境を求めてくるということが今もあるのだなと思った。近世以来の歴史を支えてきた北区の間山地域が危機的な状況であるとお聞きし、役所周辺とは違う問題を抱えていて私もどうすればいいのかと思っている。色々な方のご御意見をもとに、私は地図を交えながら、場所をつなぎ、世代をつなげていければと思っている。

#### ○委員

専門は老年看護学、災害看護である。まちづくりにおいて、防災力、減災力は事前の地域力・コミュニティ力が影響するということが明らかになっている。昨年北区の防災訓練を佛教大学で実施いただいたり、各学区の防災・消防訓練に参加させていただき、北区の方は非常に意識や地域力が高いと感じた。その地域力を生かして、防災という切り口でもう一歩進んだ取組を一緒にできればと思う。

## ○委員

「つながるプログラム」にもあるように、一人一人とつながることが大切である。そのためには人権を大切に、それぞれの個性を尊重しなければつなげれない。若い人の中には、LGBTの考え方などから100年後、50年後には性別がなくなるのではと考えている人もいる。日本で同性同士の結婚は認められていないが、世界の主要な国では認められているところがある。多くの大家族から核家族、単身世代へと移っており、「個人化」言い換えれば「個性化」の時代となっている。こういう人たちと地域がつながるためには一人一人の個性を認めていかなければならないということである。どうやってつながっていけばよいかを皆さんと一緒に考えていければと思う。

## ○志藤座長

専攻は地域福祉である。一軒一軒の家を回って話を聞いている。最近コミュニティということに関しては、どういう対話をしていくのかが難しい。そのあたりを皆さんと一緒に考えられたらと思っている。

以上、委員の皆さんからの御意見・問題提起をいただいた。北区としては新たに考えていかなければならないプランを見据え、30年度は「学び合いのまちづくり」をテーマにすすめていければと思う。

以上、議題1「平成30年度まちづくり会議の進め方」について、ご異論がなければ、拍手をお願いしたい。

( 拍 手 )

## ○志藤座長

それでは、これで本日予定されていた議題は終了したので、事務局にお返しする。

## ○事務局

志藤先生、ありがとうございました。本日は、皆様の熱い思いを聞かせていただいた。学習会の詳細については、後日ご連絡させていただく。今後も、引き続き、委員の皆様のお力添えをお願いします。本日は長時間に亘り、ありがとうございました。